

2021年度 三附属交流会【講演会開催】のご報告 コロナ禍だって『食』で家族力をアゲル♪

12月9日(木)に三附属交流会を開催しました。附属学校園の保護者間の交流を目的とする行事で、親睦を深めたり情報交換したりする機会として毎年カタチを変えつつ続いている三附属の行事のひとつです。

今年度はサカモトキッチンスタジオの坂本佳奈氏をお招きして食育についてのお話を伺いました。「こうあるべき」という気構えのいる話ではなく、ゆったりと長い目で子どもを見守ればいいという保護者として肩の力を「ホッ」と抜ける内容でした。後半には三附属の保護者が入り混じったグループに分かれてテーマに沿った意見交換を行い、子どもの世代は違っても食についての悩みや取り組みは保護者共通なのだ改めて心強く感じるひとときとなりました。

みなさまに少しでも共有していただきたく、参加された方の感想を一部ご紹介させていただきます。

また、1月には本校購買横に、交流会の様子が見られるご報告の掲示を予定しています。三附属間の交流に興味をもっていただければ幸いです。

とても有意義な時間を過ごせました。信じて見守り待つとゆうのがなかなかできていなかったの、これから意識して子供と過ごせたらな～と思います。楽しくお話が聞けて、いつも憂鬱な食事作りがなんだか今日は楽しくできそうです！先生ありがとうございました。

子ども達の体と心、社会生活にまでとても影響する、食生活。そこには、子ども個人を尊重し、認めてあげて待つ。他の全ての教育と同じように思えました。また子どもを信じて、親などの周りの大人は辛抱強く待つ覚悟も必要に思いました。好き嫌いにこだわらず、嫌いな物も徐々に(直にでなくとも、長い目で見る。)少量の受入が可能へつながら、具体的な回数まであげてもらい、嫌いな物への対応も少し自信が持てるようになりました。食べられた成功も、子どもの自信に繋がれたらなども、思いました。自分の～すべき!が少し減り、心に余裕が出来たようにも思え この余裕を先程の忍耐にあてたいと思います。このような、貴重なお話を聞ける機会をいただき、ありがとうございました。

子どもの好き嫌いに悩んでいたの、いろんなお母様方の貴重なご意見を聞いて良かったです。生きる力・食育の大切さを先生に教えて頂き助かりました。

先生が多くの研究と経験で得られた知識を、とても分かりやすく丁寧にお話くださり、またすべて興味深いことばかりでどんどん引き込まれ、1時間のお話では足りない気持ちでした。うちの高学年と中学生の子どもにはもう「子ども包丁」ではないのか…の時点で「食育出遅れ感」を感じたのもつかの間で、好き嫌いも数年ではなくもっと「長いスパン」でいいんだよという先生の言葉に「信じる・見守る・待つ」を実践するのも「気づいた今から」でも大丈夫なのね♪と勇気とやる気を頂いて帰りました。子どもこそ本物を!というお考えは奈良教育大学の附属の教育に通ずる!と親子で歩んでいる「附属の教育」との接点をも感じ、本質的なことと本当に大切にしたいことを確かめられた機会となりました。子育ては期間限定♪かけがえのない時間に感謝します!

子どもが幼稚園の時に聞いたかった内容でした。なるほど!!と思うこともたくさんあり、これからでも間に合う内容もあり良かったです。幼・小のお母さんと話せたこともすごく良かったです。楽しい時間を過ごせました。